

# 令和6年度学校経営計画

江田島市立江田島小学校

## I ミッション

- ふるさと「江田島」で、学んで良かったと思える教育の実現
- 一人一人が主体的に学び、多様な人々と協働して、新たな価値を創り出そうとする基盤づくり
- 「里海」を教育資源と捉え、自然体験活動や探究活動の充実を図り、自然に対する好奇心や探究心を育む
  - ・資質・能力の育成を意識した学びの連続性
  - ・地域の教育資源の活用と体験学習の充実

## II ビジョン

- 地域の願いを受け止め、教職員が協力し、「知・徳・体」をバランスよく育む教育の創造

## III 現状分析

### 「確かな学力」

- ・令和5年度「江田島市学力調査」より、各教科平均正答率（着色のセルの箇所は、目標値を下回ったもの）

	国語			算数			理科		
	知・技	思・判・表	主体的	知・技	思・判・表	主体的	知・技	思・判・表	主体的
1年	74.2	62.9	66.7	78.9	75.0	58.5			
2年	77.9	69.6	64.6	74.6	51.4	59.7			
3年	68.6	60.0	54.3	73.3	44.9	51.1	67.1	52.8	61.6
4年	72.7	55.5	44.7	72.4	51.3	41.8	78.8	60.3	62.4
5年	74.9	69.4	70.3	73.9	44.5	43.7	66.4	59.4	53.4
6年	64.3	70.7	68.2	82.9	55.9	62.1	69.7	65.2	67.6

- ・令和5年度までの3年間、県教育委員会より「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向け、取組を進めてきた。令和5年度の全国学力・学習状況調査においては、国語科の平均正答率は66%（県平均より-3ポイント）、算数科の平均正答率は64%（県平均+0ポイント）、理科の平均正答率は66%（県平均より-3ポイント）と実施された3教科のうち2教科で県平均を下回った。
- ・江田島市学力調査においては、学年別の経年変化で各教科の平均正答率を比較してみると、国語科ではすべての学年で前年度を上回る成果が表れているものの、算数科や理科では、ほぼ横ばいの結果であった。また各学年の各教科の合計点で、目標値を上回った割合は68.8%であった。今後も学校全体で「思考力・判断力・表現力」を高める取組が必要である。

### 「豊かな心」

- ・自己有用感を感じている全児童の割合は、中間評価で84%、最終評価で83%であり、昨年度と比較してほぼ横ばいの結果であった。また、目標に向かって努力する児童については、中間評価で82%、最終評価で84%であり、目標値であった85%以上を達成することはできなかった。
- ・校内の早朝ボランティア活動への参加率は、全児童中59%の児童が年間1回以上参加することができた。

### 「健やかな体」

- ・「運動やスポーツが好き」と答えた5年生児童の割合は86%であり、目標値であった90%以上を達成することはできなかった。また、進んで運動に親しもうとする児童の割合は、全児童アンケートで「外遊びが好き」と答えた割合は86%に留まり、目標値の90%を達成することができなかった。

### 「信頼に応える学校」

- ・令和5年12月に実施した保護者アンケートでは、保護者の学校満足度は、87.8%であり、前回の9月調査と比べ改善したものの、目標値であった90%以上を達成することはできなかった。今後も教職員自身が保護者や地域の願いを受け止め、組織的に取り組みを進めていくことが必要である。

### 「働き方改革」

- ・令和6年2月末現在の超過勤務時間60時間以内の教職員の割合は89%で、目標値であった85%以上を達成することができた。今後も教職員が働きやすい環境の改善が構築できるよう、組織・個人の両面から創意工夫が必要である。

IV 学校教育目標

まっすぐ しなやかに ねばり強く ～ 学びをつなぎ、ともに創造しようとする児童の育成 ～

V 目標及び取組

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
学び続ける力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びを推進し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、児童自らが粘り強く学習に取り組もうとする力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な学びと協働的な学びの一体的に推進し、授業改善を進める。 (「主体的な学び」が定着している児童の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育を推進し、資質・能力の育成を目指した授業改善を継続的にを行い、学びの自立化を進める。</li> <li>4つの資質・能力を教職員と児童が共有し、取組をフィードバックさせる中で、主体的な学びをより一層定着させる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の定着を図る。 (江田島市学力調査の各教科の合計点が、目標値を上回った学年の数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリント学習に加え、タブレット端末等も効果的に活用し、つまづきのある児童への具体的な手立てを工夫する。</li> <li>家庭学習において自主学習の方法を工夫し、児童自らが、課題と思う単元の学習を選択的に行わせる。</li> </ul>
思いやりのある心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの個性や多様性を認め合い、安全・安心な学級づくりを実現し、児童自らが主体的に活動しようとする力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで行動することを通して、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 (自己実現力・自己有用感がある児童の割合)</li> <li>自分の夢や目標をもち、実現に向かって努力する児童を育てる。 (目標に向かって努力する児童の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内外でボランティア活動を継続実施する中で、児童の行動を適切に評価し、価値付けをしていく。</li> <li>道徳教育や人権教育の充実を図りながら、他者を思いやる心を育むとともに、児童の言動に対して的確な指導や評価を行う。</li> <li>体験活動を計画的に仕組み、キャリアノート等も効果的に活用しながら、自己の目標や課題を視覚的に確認できるようにする。</li> </ul>
健やかな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の楽しさを味わえる取組を推進し、体を動かす機会を習慣化させ、児童自らが体力向上を図ろうとする力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動習慣の確立に向け、粘り強く取り組む児童を育てる。 (「運動やスポーツが好き」と答える児童の割合)</li> <li>自ら進んで、運動に親しむ児童を育てる。 (進んで運動に親しむ児童の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びを奨励し、友達と関わりながら体を動かすことの楽しさを味わうことができるよう、各学級で遊び方等を工夫する。</li> <li>体育委員会を中心に、異学年集団で遊べる外遊びを計画し、運動の楽しさを味わわせる。</li> <li>体育の授業内で、サーキットトレーニングや単元に沿った準備運動を取り入れ、「瞬発力」「持久力」「跳躍力」に焦点化した種目に取り組ませる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>食と健康の大切さに気付き、より良い生活習慣の定着に向け自己管理できる児童を育てる。 (朝食を毎日食べた児童の割合) (起床・就寝時刻の固定ができた児童の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着を図るため、生活リズムチェック等を活用した保健指導を実施させ、取組の充実を図る。</li> <li>食に関する知識の習得及び実践できる能力の育成を目指し、学校医や栄養士と連携した給食試食会の取組を計画的に行う。</li> </ul>
信頼に応える学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域住民等の協力を得ながら学校運営を行い、家庭やPTAと連携・協働した取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童、教職員の姿を通して、地域・保護者から信頼される教育活動を推進する。 (保護者の肯定的評価の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートやいじめアンケート等を計画的に実施し、児童や保護者の思いを受け止めながら、教育活動を推進する。</li> <li>保護者との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、ホームページや学校だより等で日常的な児童の成長を伝え、発信していく。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革を推進し、教職員が健康でやりがいを持って働くことができる環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>超過勤務時間を削減し、教職員がやりがいをもって働ける組織づくりを進める。 (超過勤務時間の割合) (教職員の肯定的評価の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート等も実施し、業務改善に向けた取組を継続的に行う。</li> <li>日課等を工夫し、子供と向き合う時間を確保する。</li> </ul>